

## 授業改善

### 当たり前になっている授業改善

「授業改善」教員なら、よく目にし、よく聞く言葉です。当たり前すぎて、この言葉を聞いても誰も反応しないでしょう。

では、どのくらいの先生方が、自分の授業を改善しているのでしょうか。経験を積んでいけば、必ず改善するというものでもありません。逆に、改善の意識をもたぬまま、経験だけを重ねていった授業のほうがこわいでしょう。

### 授業改善はできているのか

どうすれば、授業を改善することができるのでしょうか。自分で、1学期間、あるいは1年間、それとも数年間、テーマを設けて授業改善に取り組む先生がいます。教員になって6年目や11年目あたりに行うことになっている研修を契機に授業改善に取り組む先生がいます。それ以外でも研修の機会があり、それらを生かす先生もいます。

チャンスはあったとして、授業を改善することはできているのでしょうか。先生方に、自分の授業を改善したという実感はあるのでしょうか。中学校の場合、このところが、甚だ心もとないのです。毎年、どの中学校でも、研究主題や副主題を設定し、研究という名のもとに、授業改善に取り組んでいるはずなのですが、実際のところ、どのくらい成果が上がっているのでしょうか。

### 野田中学校方式授業改善

今年度の野田中学校では、1人2回の研究授業を行うこととしました。1人1回では、授業が改善したのかがわかりません。事後の協議会を開いても、ああでもない、こうでもないとなりがちです。あるいは、当たり障りのないことを言い合って終わってしまいます。これでは、授業改善の道のりは遠いと言わざるを得ません。

1人2回であれば、1回目の研究授業が終わり、事後の協議会等の場で、2回目の授業では、こうしたほうがよいという話ができます。授業者は、アドバイスをもとに、2回目の研究授業を行います。その後の協議会等では、1回目と比べて、2回目の授業はどうだったのかという話ができます。協議内容を絞り込むことができ、わかりやすくできます。何よりも、授業者自身が、2回目の授業のほうがよかったという実感をもつことができます。参観者も、2回目のここがよかったと、具体的に述べることができます。すなわち、授業を改善することができるのです。

この方法がよいのは、1回目と2回目を比較することにより、授業を改善するということを経験できるかもしれないという点です。授業を改善するとはこういうことかとわかることです。一度、授業改善を経験できた先生は強いと思います。あとは、自分のペースで取り組むことができるようになるでしょう。

野田中学校では、授業を担当している先生方が、全員、1人2回の研究授業を行いました。当たり前のことのようにも思えますが、そうではありません。決して簡単なことではありません。全員の先生方が、授業改善に取り組んだこととなります。

### みんなで取り組んだ授業改善

一番、研究授業を参観したのが私で40回以上に及びます。次が、教頭先生と研修主任の工藤先生です。お二人とも、かなりの研修を積んだことでしょう。ベストの授業などありません。ひたすらベストに近いベターな授業を追い求めるだけです。みんなで取り組むことには意義があります。みんなでやればできます。みんなでやるから効果が上がります。そのことがわかった1年でした。